銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—(24)—

東京支店　神　原　勇

サカマタ

分類：鯨目ゴンドウクジラ科（哺乳類）

学名：*Orcinus orca*

英名：Killer whale

和名：シヤチ，シヤチクジラ，シヤチホコ

寒帯から熱帯まで全海域に分布し，他の魚類及その他の水性動物でこれ程広い生息域を示すものは見当らない。太平洋と大西洋産のものを別の種とする説もあるが，両大洋の接触海域での調査不十分ではあるが唯単に棲み分けであるとの説が強く，游泳力より判断して可成りの年月を要するにしろ交流はあるものとされている。

日本近海では四面の海域に見られ過去10ケ年間の捕獲記録から見ると，網走沖，釧路沖，三陸沖，紀伊半島の順となっている。一般的に水温20°Cを境としてこれより冷い寒冷なる水域では動作が緩慢となり捕獲され易い。游泳速力30ノット（時速約54 km）で原動力となるのは他の鯨類よりもより厚めで強力に出来た尾鰭で，胸鰭も大きく頑丈で方向転換に使われる。

体型は典型的な紡錘形で，体長の30%にも相当する長三角形の背鰭が略々体の中心部にあって，游泳の際は海面上に突き出し他の種属と一見して識別される。この海面上に突出した背鰭は見る人をして加速されたものであるので，古来最も強力な武器である矛（ホコ）を逆さにしたような形に見えるので逆矛（サカマタ）と呼ばれるようになった。又このサカマタは古来より魚の一種と考へられていたが（分類学的には哺乳類に属する）陸上の王者虎に対し，海上での最も恐しい動物の意味より魚偏に虎の字をあてて鯱（シャチ）の由来するところである。

体色は背部が黒色，腹部が白色で黒と白色とのコントラストは判然としている。臍の部分の上方から背側にかけて波形の白い切れ込みがある。眼の後部やや上方には卵型の白色斑紋があり遠くから見るとこの白色斑紋は丁度眼のような形に見える。上下の顎には12本の円錐形の長さ10〜13 cmの鋭い歯が並び断面は長円形である。この歯は他のものとは異り交互に組み合わさって人間の両手を組みあわせたような形になり，食物をちぎりとるのに有利な機能となっている。

食物は過去10ケ年間に捕獲した600頭の胃の内容物の調査したものによれば空であったものは30頭にすぎず如何に貪食であるかを物語ると共に，魚類ではタラ，カレイ，ヒラメ類が最も多く，これに次いでイワシ，サケ，マス，マグロ，カツオの順となっている。その他イルカ類，イワシクジラ類等がある。デンマークの Eschricht の1862年の調査記録によれば7 mのサカマタがオツトセイの仔を60頭も丸のみにしていた事が報告されている。

遠洋鮪延縄漁船の赤道附近及暖海でのシヤチによる甚大な被害は殆んど本項のサカマタによるものではなくオキゴンドウ（*Pseudorca crassidens* 英名：False killer whale）によるもので筆者が調査船に乗船中，数次にわたり捕獲した経験をもっている。

サカマタ

分類：鯨目　ゴンドウクジラ科　（哺乳類）

学名：Orcinus orca

英名：Killer whale

和名：シヤチ，シヤチクジラ、シヤチホコ

全世界ノ海洋ニ分布シ　普通海洋性ダアルガ内海ニ侵入スル事モアル。游泳速力ハ30ノットニ達シ大キナ背鰭ヲ仰ンヲ泳ダアリ姿ハ、威ニ壮観ダアル。魚類ハモトヨリ、鯨類イルカ、イカ、タコ等ヲアタリ次第ニ捕食スル。体色ハ背側ガ黒ク腹側ガ白ク、黒ト白トノ境目ハハッキリト分レ、ヘソノ部分ニハ背側ニ波形ノ白ク切レ込ミガアル。眼ノ後上方ニ白斑ガアリ、遠クカラ見ルト眼ノヨウニ見エル。極メテ貪食ノタメ各海域ニ操業スル漁船ノ流網、延縄ニカカッタ魚ノ頭ダケヲコソ、ネカスベテヲ食ベテシマウ被害モ頗ル大キイ。

日本　-1959-

オーストラリア領南極　-1973-

フランス領南極　-1969-

セネガル　-1973-